

# (仮称) 市民ICT支援センター 市民・学生ワークショップ まとめ

政策企画部DX推進課  
令和6年2月

# 1. はじめに

---

令和7年度中のオープンを目指して整備を進めている「（仮称）市民ICT支援センター」（以下、新センター）が魅力ある施設となるよう、事業や運営などに関するアイデアを提案していただくため、新センターのコンセプトをテーマとして、「市民」「学生」向けのワークショップをそれぞれ開催しました。

ワークショップでは、幅広い世代の方に活発に議論していただき、多様なご意見をいただきました。

新センターでは、上田市マルチメディア情報センターのこれまでの成果や培ってきたノウハウを活かしながら、ワークショップでいただいたアイデアや意見も踏まえ、市民の皆さんのニーズに応じて、様々な角度からICTの体験・学習ができ、多くの方に活用していただけるような事業を展開していきます。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

## 2. ワークショップの開催状況

---

### ① 市民ワークショップ

開催日・場所 9月10日(日) 本庁5階大会議室

参加者 12名：男性10名、女性2名

(20代1名、30代3名、40代1名、50代1名、60代1名、70代5名)

内容 グループワーク

### ② 学生ワークショップ

開催日・場所 2月17日(土) まちなかキャンパスうえだ

参加者 13名：男性9名、女性4名(大学生7名、高校生3名、社会人サポーター等3名)

内容 第一部 ICT座談会(トークセッション)

長野大学企業情報学部3年池野さん×(株)間島宣伝事務所代表 間島さん

第二部 グループワーク

### 3. 市民ワークショップから出された意見（抜粋）

#### コンセプト（テーマ）Ⅰ～Ⅲ

##### Ⅰ 子どもを対象としたICT人材の育成 ～地域でICT人材を学べる場の提供～

- ネットリテラシーの習得について、学校だけでなく家庭でも行えるように、保護者に「ペアレントコントロール」の方法を伝えてほしい
- プログラミング言語はたくさんあるが、子どもが興味を持てる言語を選んで取り組めるようになるとうい
- 初歩的プログラミングからプロフェッショナルへの移行といった、最新の技術につなげていくことが重要で、今後、社会に出て使えるものを学べる場所であってほしい
- 子どもたちが教わるだけでなく、本物のデータを使って「何をするか」から考え取りまとめる環境。上田市に貢献するような「モノ」「コト」を創り出す力が養える環境にしてほしい

##### Ⅱ 市民のデジタル活用支援 ～デジタルデバイド対策～

- 高齢者の間ではスマホ操作による情報格差があるため、その差を埋めるために苦手と思う人でも、ランチやお茶などの時間に気軽にデジタルに触れ合える場が欲しい
- 情報ツールや欲しい情報の入手の手助けをしてもらえ、聞けばわかる、調べられるという場所になるとよい
- 教えてほしいことは市民共通ではない。やりたいことを形にしていくため、ニーズをしっかりと捉えて、それぞれに適した支援が必要である

##### Ⅲ 地域の文化資源の保存・発信 ～デジタルアーカイブ事業～

- ただデータで残すのではなく、次の世代へのギフトになるような情報を残す取り組みが必要である
- 市民がアーカイブとして登録できたり、持ち込めたりする受け皿を用意するなど、市民参加型のデジタルアーカイブを実現してほしい
- アーカイブ画像は2次利用を考え、テキスト形式で保存することが望ましい
- 市のホームページから全てのアーカイブデータが見れるとうい（データの一元管理）

## 4. 市民ワークショップの様子

Aグループ



Cグループ

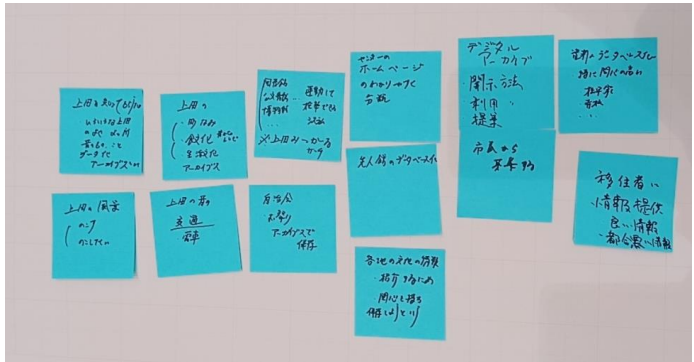
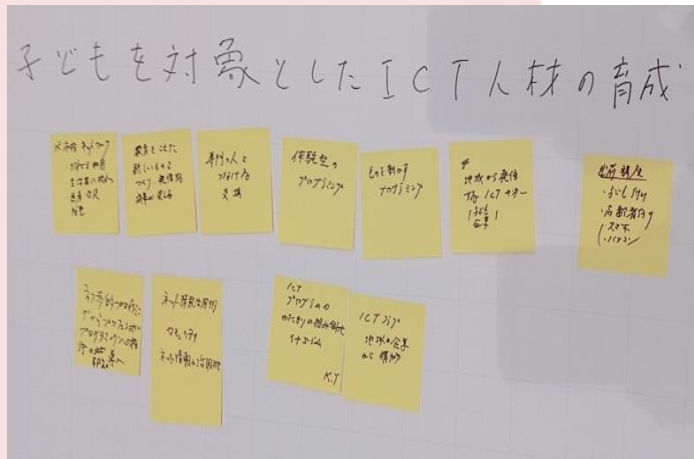
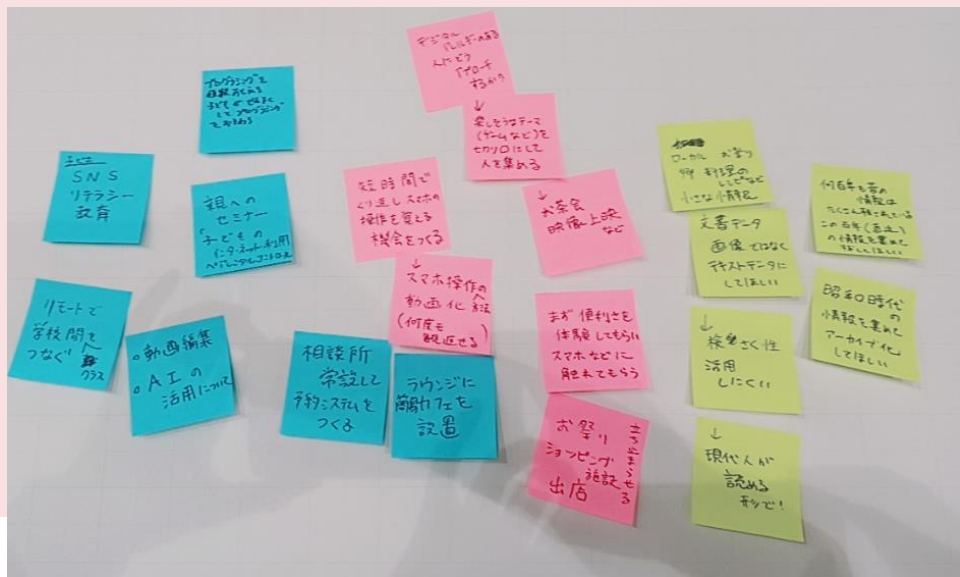


Bグループ

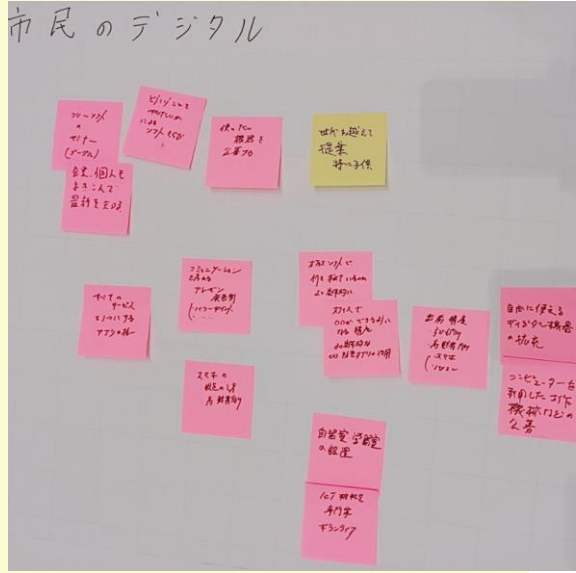


# 4. 市民ワークショップの様子

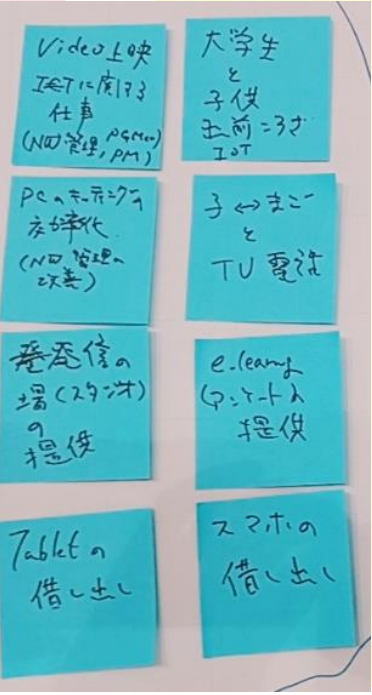
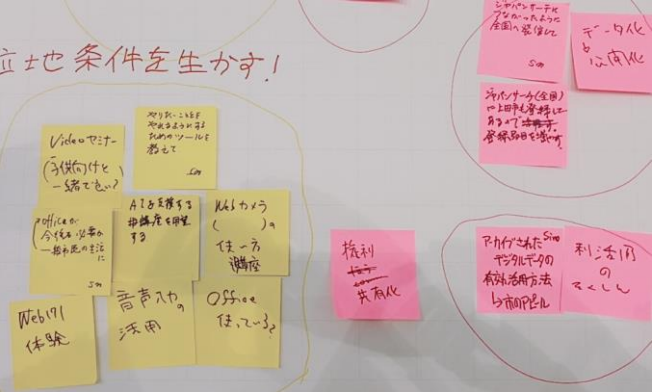
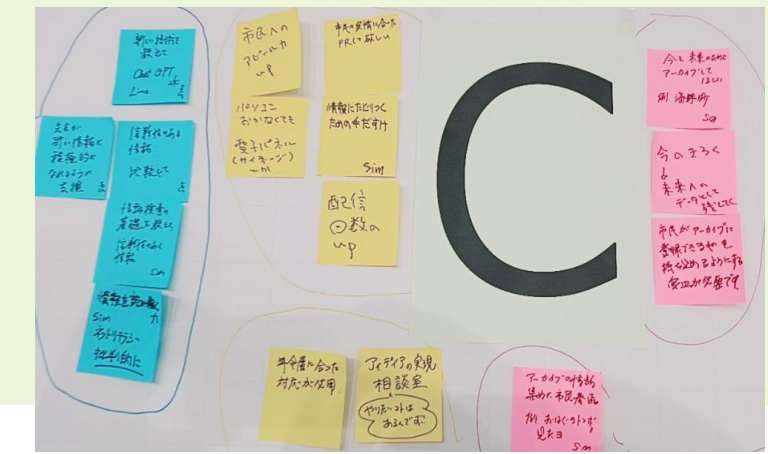
## Aグループ



## Bグループ



## Cグループ



## 5. 学生向けワークショップから出された意見（抜粋）

### コンセプト（テーマ）Ⅰ～Ⅲ

#### Ⅰ 子どもを対象としたICT人材の育成 ～地域でICT人材を学べる場の提供～ （未来を担う子どもや学生が集い学びあう）

- 学生の目的やニーズを捉えた講座を実施してほしい。また、学校以外での集える場所として、他校とのつながり、同レベルの学生同士と一緒にプログラミング活動ができる場所がほしい
- 大人はあえて手を出さず、ゼロから子ども（若者）に好きにやらせる場が望ましい
- 新センターがモンスターハンター（ゲーム）のギルドとなり、ハンターが集まってクエストを遂行する仕組み、つまり地域課題などについて、解決してほしい人がギルド（斡旋所＝新センター）に仕事を依頼して、ハンター（スキルを持っている人）がそこに行ってクエスト（依頼書）を受注しギルドに完了報告をすると報酬（ポイントなど）がもらえるような仕組みがあったらおもしろい
- パソコンが使えるコワーキングスペースがほしい

#### Ⅱ 市民のデジタル活用支援 ～デジタルデバイド対策～ （市民のデジタル活用を支援する）

- ネットの情報が正しい情報なのか不安も多く、新センターで人と人が向かって学ぶことが安心感につながる
- パソコンが使えるコワーキングスペースがほしい

#### Ⅲ 地域の文化資源の保存・発信 ～デジタルアーカイブ事業～ （地域の文化資源を保存・発信する）

- 上田のまちのコンテンツ化し、観光客にPRする。（学校の今昔、旧青木線・真田傍陽線、上田城等）
- VRの活用（昔のまちなみ再現）

## 6. 学生向けワークショップの様子



第一部座談会

Aグループ



現地に赴いて



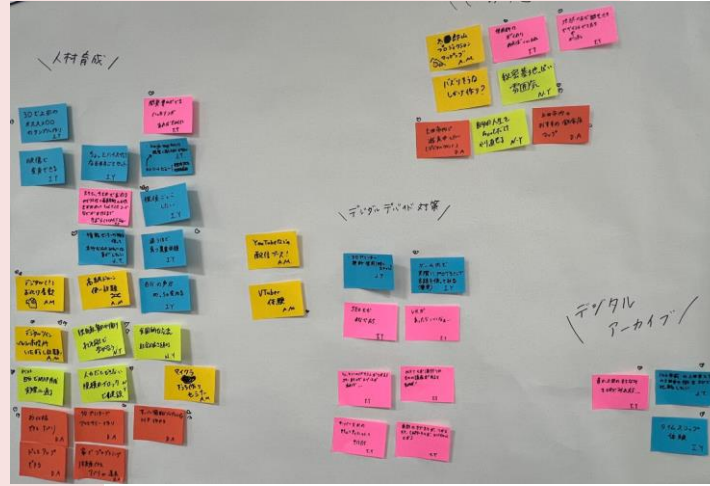
Bグループ



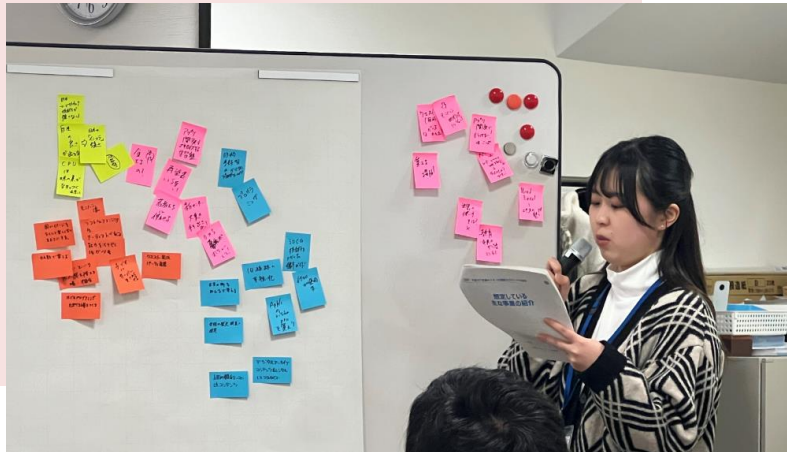


## 6. 学生向けワークショップの様子

Aグループ



Bグループ



## 7. 付せんの内容 原文のとおり（市民ワークショップ）

### グループA

#### コンセプト1「子どもを対象としたICT人材の育成」について

- ・プログラミングを複数教える。子供が選択してプログラミングを教わる
- ・親へのセミナー「子どものインターネット利用」ペアレントコントロール
- ・SNS リテラシー教育
- ・リモートで学校間（クラス）をつなぐ
- ・相談所 常設として 予約システムを作る
- ・ラウンジに簡易カフェを設置

#### コンセプト2「市民のデジタル活用支援」について

- ・デジタルアレルギーのある人にどうアプローチするのが良いか
- ・→楽しそうなテーマ（ゲームなど）を切り口にして人を集める
- ・→お茶会、映像上映など
- ・短時間で繰り返しスマホの操作を覚える機会を作る
- ・→スマホ操作方法の動画化（何度も見返せる）
- ・まず便利さを体験してもらい、スマホなどに触れてもらう
- ・お祭り、ショッピング施設・出店 立ち止まらせる
- ・家計簿ソフトなどスマホにより効率的になるソフト等の講座

#### コンセプト3「地域の文化資源の保存・発信」について

- ・ローカル お祭り 郷 料理レシピなどの小さな情報
- ・文書データ 画像ではなくテキストデータにしてほしい
- ・→検索性 活用しにくい
- ・→現代人が読める形で
- ・何百年も昔の情報はたくさん残されている。この百年（直近）の情報を集めて残してほしい
- ・昭和時代お情報を集めてアーカイブ化してほしい
- ・CAD、CAMなど身近でないソフトに触れられる機会づくり

## 7. 付せんの内容 原文のとおり（市民ワークショップ）

### グループB

#### コンセプト1「子どもを対象としたICT人材の育成」について

- ・市民ネットワーク 誰でも利用、生活者に役立つ、医療介護、防犯
- ・教育を超えた新しいものをつくり、発信する成果が見える
- ・専門の人をつなげる支援 ・体験型のプログラミング ・ものを動かすプログラミング
- ・地域からの発信するICT支援センター こども、企業
- ・出前講座 子供向け、高齢者向け（スマホ・PC）
- ・初歩的プログラミングからプロフェッショナルプログラミングへの移行の手段の導入
- ・ネット情報活用術 セキュリティ
- ・ICT プログラムの塊の組み合わせ いちごジャム
- ・ICTクラブ 地域の企業からの講師

#### コンセプト2「市民のデジタル活用支援」について

- ・フリーソフトのセミナー（グーグル）
- ・企業・個人を巻き込んで最新を知る
- ・どういふことをやりたいかによるソフト選び
- ・使いたい機器を公募する
- ・世代を超えて提案 特に子ども
- ・すべてのサービスを1つにするアプリの統一
- ・コミュニケーションを高めるプレゼン発表術（パワーポイント）
- ・スマホの説明の仕方 高齢者向け
- ・オフィスソフトで何を求めているのか より具体的に
- ・オフィスで××ができるようになる講座、より具体的な（例：防犯アプリの活用）
- ・出前講座 子供向け、高齢者向け（スマホ・PC）
- ・自由に使えるデジタル機器の拡充
- ・コンピューターを利用した工作機械などの公募
- ・自習室の設置
- ・ICT相談員、専門家、ボランティア

## 7. 付せんの内容 原文のとおり（市民ワークショップ）

### コンセプト3「地域の文化資源の保存・発信」について

- ・上田を知ってもらう
  - いろいろな上田のよいところ 昔のもの、こと データ化アーカイブス
- ・上田の町なみ、食文化（昔からのレシピ）、生活文化のアーカイブス
- ・図書館、公文書館、博物館 連動して検索できるシステム ※上田みつけるサーチ
- ・センターのホームページの分かりやすく分類
- ・先人館のデータベース化
- ・デジタルアーカイブの開示方法、利用方法、の提案を市民から募集する
- ・資料のデータベース化 特に関心の高い 松平家、赤松
- ・移住者に情報提供 良い情報、都合悪い情報
- ・上田の風景を残す、残したい
- ・上田の昔の交通・電車
- ・自治会・お祭り、アーカイブで保存
- ・各地の文化の情報を紹介するため関心を持ち保存しようという

## 7. 付せんの内容 原文のとおり（市民ワークショップ）

### グループC

#### コンセプト1「子どもを対象としたICT人材の育成」について

- ・ビデオ上映 ICTに関する仕事（Nw管理、PGMer、PM）
- ・PCのキッキングの効率化（NW管理の改善）
- ・発信の場（スタジオ）の提供
- ・タブレットの貸し出し
- ・大学生と子ども出前講座（ICT）
- ・子⇄孫とテレビ電話
- ・e-leaning（アンケート）提供
- ・スマホの貸し出し
- ・新しい技術を教えて チャットGPT、line
- ・先生が新しい情報に積極的になれるように支援
- ・情報検索の基礎を教えて 信頼性のある情報
- ・情報を読み解く力 SIM ネットリテラシー 批判的に
- ・親子で遊べる時間をテーマに共有スペースを作る
- ・子どもたちの作品の発表会を行う
- ・子供たちン共有スペースが少ないのでは？
- ・DX モノからコト 機番使うからどう活用するか
- ・どうやって飯を食っていくのか。ICTの活用
- ・多くのものを組み合わせて新しい「モノ」「コト」を造り出す力
- ・創造館での学習をやっているように、プログラミング体験をセンター全学校に
- ・センターのイベントは続けること
- ・マスメディアも使ってICT支援センターをPR

## 7. 付せんの内容 原文のとおり（市民ワークショップ）

### コンセプト2「市民のデジタル活用支援」について

- ・立地条件を生かす
- ・年齢層に合った対応が必要
- ・アイデアの実現 相談室 やりたいことはあるんです
- ・やりたいことをやれるようにするためのツールを教える
- ・ビデオセミナー（子供向けと一緒によい？）
- ・一般市民の生活にofficeが今後必要か
- ・WEB171体験 ・AIを支援する講座
- ・音声入力の活用
- ・WEBカメラの使い方講座
- ・市民へのアピール力のアップ
- ・市民の実情に合ったPRして
- ・情報にたどり着くための手助け
- ・PCおこななくても電子パネル（サーネイジ）とか
- ・配信回数のアップ

### コンセプト3「地域の文化資源の保存・発信」について

- ・今を未来のためにアーカイブしてほしい（海野町とか）
- ・今の記録→未来へのデータをのこしておく
- ・市民がアーカイブに登録できるものや持ち込めるようにする受け皿が必要
- ・アーカイブの情報集めに市民参加（例：おはぐろとんぼ見たよ）
- ・ジャパンサーチにつながったように、全国に発信して
- ・データ化→公開化
- ・ジャパンサーチ（全国）に上田市も登録してあるので登録品目を増やす
- ・権利 共有化
- ・アーカイブされたデジタルデータの有効活用方法→市のアピール
- ・利活用の促進

## 8. 付せんの内容 原文のとおり（学生ワークショップ）

### Aグループ

- ・日本はソフトウェア技術が強くない
- ・日本の良さが出てない
- ・CPUは味の素が無ければ作れない  
⇒日本の「インフラ」の強さ マネタイズ
- ・学生からお金をとるの？
- ・再塗装はいらない（外観）
- ・大手は手を出さない・若者たちに使わせる
- ・0か5（S?）募集して
- ・堅いイメージをなくして楽しく学べるように
- ・少人数で楽しむ
- ・難しいという先入観を捨てる場、機会
- ・外でもプログラミングを学べる場を作る
- ・モンハン流・クエスト発注、パーティ募集
- ・ソフトウェアエンジニアはアーティストである 能力を活かせる場が必要
- ・未来のまちをみんなで考える
- ・学校の歴史調査、探求
- ・目的趣向型のデジタルアーカイブ
- ・プログラミング
- ・3DCG技術を使った街ガイド
- ・旧線跡の可視化
- ・付加価値的な
- ・Appleのvisipn pro を買え
- ・上田のまちをテーマにしたコンテンツ
- ・デジタルアーカイブコンテンツをレンタルしてマネタイズ

## 8. 付せんの内容 原文のとおり（学生ワークショップ）

---

### 【モンハン】

- ・ギルド、クエスト（目的）、ベースセンター
- ・アプリ開発はワード、エクセルとかプログラミング→何のため？  
⇒ワード、エクセル-地元の塾
- ・アプリ開発でマネタイズする学習塾
- ・アプリ開発で儲けたいはニーズ
- ・集まる場所
- ・教育 市民のデジ活になる



## 8. 付せんの内容 原文のとおり（学生ワークショップ）

### Bグループ

#### 【人材育成】

- ・3Dで上田のオススメ・・・のサンプル作り
- ・映像で変身できる
- ・お化粧ができるアプリ
- ・ドレスアップできるアプリ
- ・自分の声がめっちゃ変わる
- ・ちょっとハイスペックなおままごとセット
- ・情報センターのモノを使ってポケモンGOみたいなことがしたい
- ・高級ドローン使い放題
- ・デジタルお化け屋敷
- ・デジタルツイン（現実の世界から収集した、様々なデータを、まるで双子であるかのように、コンピュータじょうで再現する技術、デジタル複製）市役所 いたづらし放題！
- ・イベント自分でMAP作成 実際に通る
- ・3Dプリンタでアクセサリ作り
- ・マイクラ装置作りセミナー
- ・家でもプログラミング体験できるアプリor道具
- ・すごい簡単なプログラミングでホームページが作れる
- ・Google mapのような視覚に訴えたものが欲しい（館内ストリートビュー）
- ・人力だとできない規模のブロックで建設
- ・探偵ごっこ
- ・通うほど育つ農業体験
- ・独自通貨のやり取り
- ・子ども同士で学びあう
- ・スクラッチとかで終わるのではなく、長期的に子供とかかわっていく、ちゃんとしたコードなどが書けるまでサポートしてくれたらいいな
- ・開発費が出るハッカソン（アプリやシステムの開発を担当するエンジニア、デザイナー、プログラマーなどが集まり、集中的に開発を行うイベント）があればたのしい
- ・全国的な交流、社会の広さを知る

## 8. 付せんの内容 原文のとおり（学生ワークショップ）

### 【デジタルデバイド】

- ・3Dプリンター無料使用（特にスキャン）
- ・ゲーム内で実際にプログラミング言語を試してみる（簡単）
- ・SEO（Search English Optimization:検索エンジン最適化）とか学べたら
- ・VRがあったらいい
- ・ちょっといいパソコンが使えるコワーキングスペースがあればいいな
- ・NFT（非代替性トークン：偽造不可な鑑定書・所有証明書付のデジタルデータ）とかはやりのモノの講座があるとGOOD
- ・サーバーとかのセキュリティについて聞けたら
- ・有料のサブスクが使えたら（GPF4とかコパイロットとか）

※GPF4：openAIによって開発されたマルチモーダル大規模言語モデル

※コパイロット：タスクを合理化し、ワークフローを自動化し、コラボレーションを強化する機能

### 【デジタルアーカイブ】

- ・昔のまちなみをVRで見れたら
- ・100年前の上田市と今の上田市の街を3Dで比較したい
- ・タイムスリップ体験

### 【その他】

- ・YouTubeなどの配信ブース
- ・Vtuber体験
- ・太郎山プロジェクトマッピング
- ・使用料の学割があればいい
- ・秘密基地っぽい雰囲気
- ・自分の人生をちょっとだけやり直せる
- ・上田市内のオススメの飲食店マップ
- ・地域の子供たちでイベント（外装に関して）

# 9. ワークショップの開催お知らせ (チラシ)

## ●市民ワークショップ

(仮称) 市民 ICT 支援センター

### 市民ワークショップ 参加者募集

現在、下之郷にあるマルチメディア 情報センターが2024年度後期に閉館となる予定です。  
その機能を、市役所東庁舎を改装して(仮称)市民 ICT 支援センターとして新設移転します。  
(2025年4月開館予定)

市役所の東庁舎を改修し、2025年度に新たに「(仮称)市民 ICT 支援センター」の開館を予定しています。新センターのコンセプトをテーマに施設の使い方や講座などについて、皆さんと一緒にアイデアを出し合うワークショップを開催します。  
どんなことができるか考えてみませんか。

【テーマ】新しい施設の3つのコンセプトをテーマにグループワークをします。

<b>I 子どもを対象としたICT人材の育成</b> ～地域でICTを学べる場の提供～	<b>II 市民のデジタル活用支援</b> ～デジタルレバйд対策～	<b>III 地域の文化資源の保存・発信</b> ～デジタルアーカイブ事業～
① プログラミング・ものづくり体験 ② 情報モラル・セキュリティ啓発	① オフィスソフトセミナー ② スマホ講座、パソコン相談 ③ 情報モラル・セキュリティ啓発	① 文化財、地域映像・資料のデジタルアーカイブ制作・情報発信 ② 出前講座・学習活用

【日時・会場】

令和5年9月10日 日曜日 13:00～16:30 上田市役所本庁舎5階 大会議室

【対象・定員】

市内在住、在勤、在学の方、15名程度  
※応募多数の場合は抽選とし、落選となった方には9月6日(水)にメールまたは電話にて連絡します。

【申込方法】

ながの電子申請サービス、または電話で問い合わせ先まで申し込みください。

【申込期限】

令和5年9月4日(月)

参加費・持ち物は  
ありません。  
お気軽にご参加ください



楽しい未来への  
アイデアや自由な  
発想を共有して、  
市民のみならず  
皆さんが活用した  
くなる新センター  
にしませんか

ワークショップってなに？

いろいろな意見を持った皆さんが、グループに分かれて話し合い、意見をまとめることです。

ホームページ    ながの電子サービス



【問い合わせ先】  
上田市政策企画部DX推進課  
電話：0268-23-8246(直通)  
e-mail：dx@city.ueda.nagano.jp

## ●学生ワークショップ

# 募る！ 若者のアイデア

デジタルを使ったコミュニケーションで  
地域をもっと楽しく暮らしやすく。

2024 **2/17** (土) **参加費 無料**

時間 **13:00～16:00**

会場 **まちなかキャンパスうえだ**  
上田市中央2丁目5番10号 丸隔ビル1階  
※持ち物はありません

上田市では、令和7年度に新たに「(仮称)市民ICT支援センター」の開館を予定しています。ここでは、子どもからお年寄りまで気軽にデジタルに触れ学べる機会を提供し、デジタルを使ったコミュニケーション(ICT)やデジタル技術を活用して地域をもっと楽しく暮らしやすくする事業を行います。そこで、若者たちと新センターの魅力をさらに高められるようにアイデアを出し合うワークショップを開催します。あなたの面白いアイデアをみんなで共有しませんか。

こんな若者にきてほしい!

- 地域にITをつかった面白いコンテンツをつくりたい
- IT・デジタル・ものづくりに興味・関心がある若者が集まる場所がほしい
- 自分のアイデアを実現できる仲間をつくりたい
- ITで地域の未来を楽しみたい

【第1部 ICT座談会】13:00～13:30  
長野大学企業情報学部3年 × (株)間島宣伝事務所代表 池野さん 間島さん  
二人のトークセッションをはじめ、参加者も交えたICTについて座談会を行います。

池野太心さん  
昨年9月に開催された国内最大級のIT学生エンジニアのビッグコンテストである「技術展(GEEK TEN)2023」でアプリ「The SHITSUKAN」において優勝しました。

【第2部 グループワーク】13:45～16:00  
新センターの活用について、次の3つをテーマにアイデアを出し合います。

- 未来を担う子どもや学生たちが集い、学びあう
- 市民のデジタル活用を支援する
- 地域の文化資源を保存・発信する

応募は専用の申し込みフォーム(右記QRコード、URL)または、電話かメールで  
詳細は、市ホームページをご覧ください  
上田市政策企画部DX推進課  
ホームページ▶

TEL:0268-23-8246  
E-mail:dx@city.ueda.nagano.jp  
https://forms.office.com/r/9s1XGA1B7A  
※申し込みフォーム▶